

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年6月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1575900210		
法人名	有限会社 五輪		
事業所名	グループホームゆうゆ		
所在地	新潟県中魚沼郡津南町外丸丁1458 (電話) 025 - 765 - 3557		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	21年	3月18日

【情報提供票より】(20 年 12 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	15 人	常勤	15 人、非常勤 人、常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物構造	木造合金メッキ 造り 2階 建ての 1 階 ~ 2階 部分		
------	----------------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日あたり 円		

(4) 利用者の概要 (20 年 12 月現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2		8 名	
要介護3	3 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 84 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津南町立津南病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、津南駅前広場から、道路を渡ってすぐのところと位置している。雑貨店だった建物を改修しており、自然に住宅の中に溶け込み、地域の人たちにも認識されている。温泉が多い地域でもあり、ホームにも温泉を引いて利用者から大変喜ばれている。
 法人代表者は、高齢者が住みなれた地域で暮らすことへの支援を目指し、時には自らホームに足を運び職員の意見を直接聞いている。代表者との連携とともに、管理者、現場チーフである計画作成担当者を中心に2ユニットのコミュニケーションが密に図られ、明るく家庭的な運営がされている。会議やミーティング等で職員間の意見交換がなされ、ホームの多機能性を活かした利用者本位の生活支援、サービスの質の向上に努めている。特に医療機関との連携においては、職員による受診支援にも対応しており、受診に長時間を要するため職員の勤務体制も変更するなど工夫している。
 利用者が地域の中で安心して暮らせるための支援を実践しており、地域の認知症介護の拠点としての役割がますます期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果は会議で話し合い、改善に努めている。「理念の浸透」では、広報誌の発行を予定している。「マニュアルの作成」は、随時見直しを行いホームとしてのマニュアルを作成・活用している。「介護計画の見直し」は、定期的な見直しと随時の見直しを行い、現状に即した計画作成をしている。「災害時対策」は、職員自身が避難方法を身につけられるよう、ホームでの避難訓練を月1回行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員でサービス評価の意義を理解して、自己評価は分担して実施し、話し合ってまとめた。職員は、評価を通じて日頃の振り返り、再認識が出来たことに手ごたえを感じている。評価結果から課題を見出し、改善に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の様子や事業所の取り組みを報告している。利用者、家族、民生委員、地域の代表者、町役場の担当職員が委員になっており、活発な意見交換が行われている。委員からホームを見学してもらって意見を聞き、それに基づいて危険な箇所や環境の美化等設備の改善を行うなど、運営推進会議を活用してサービスの向上に努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月、利用料金の請求書とともに、職員の手書きのお便りや写真を送付し、利用者一人ひとりの暮らしぶりや心身の状況等を家族に伝えている。お便りには意見要望の欄を設け、意見を引き出せるように工夫している。また、面会時には、相談窓口があることを説明したり、会話の中から要望等を引き出すよう心がけている</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、回覧板等で情報を得ている。昔からこの地域で暮らしている住民が多く、駅前で雑貨店を営んでいた建物をホームに改築していることから、ホームに対する地域の認識は深い。散歩の時には気楽に声をかけ合い、野菜等のおすそ分けをもらったりと自然な近所付き合いが行われている。駅前広場で行われる夏祭りは、利用者が参加し地域の方と交流する良い機会となっている。また、ホームの納涼祭やクリスマス会には近所の人たちや近隣の小学生を招待して交流を深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念	開設当初に、法人代表者の思いを込めて、「その人個人を受け入れる」という考えを根拠とした理念を作り上げている。今後は、職員と話し合い、さらに具体化した目標を作成したいと考えている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は、リビング、廊下に掲示し、いつでも職員が確認できるよう工夫している。職員は常に理念を意識して、日々の利用者との関わりや気づきに結び付けて小さなことも意見交換しながら、理念の実践に取り組んでいる。		
	2-2	3 家族や地域への理念の浸透	利用者や家族には、入居時に契約書等で理念の内容について説明を行っている。面会時などでは、家族に利用者のホームでの様子を話し、わかりやすい表現で具体的な取り組みを伝えている。地域に対しては、地域行事等に参加しているが、ホームの役割や理念等の具体的な内容、取り組みを伝える継続的な働きかけは十分ではない。		管理者は以前から広報誌の発行を検討しているが、なかなか実現には至っていない。ホームの考え方や理念について、広く地域の方から理解を深めてもらうよう、広報誌の発行などの取り組みや工夫を期待したい。
2. 地域との支えあい					
	3	5 地域とのつきあい	散歩の時には気楽に声をかけ合い、野菜等のおすそ分けをもらったりと自然な近所付き合いをしている。町内会に加入しており、地域の回覧板から行事等の情報を得ている。津南駅前という立地条件もあり、駅前広場で行われる夏祭りは、利用者が参加し地域の方と交流する良い機会となっている。また、ホームの納涼祭やクリスマス会には近所の人たちや近隣の小学生を招待して交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	7 評価の意義の理解と活用	職員全員でサービス評価の意義を理解して、自己評価は分担して実施し、話し合っただけで済ませず、評価を通じて見出された課題には、改善に向けて取り組んでいる。		
	5	8 運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、奇数月に運営推進会議を開催している。ホームの取り組みや利用者の様子を報告し、活発な意見交換が行われている。また、委員からホームを見学してもらって意見を聞き、それに基づいて危険な設備や環境面の改善を行うなど、運営推進会議を活用してサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の介護保険・福祉担当者とは、生活保護世帯の利用者に関するやりとりなど日常的な連携が行われている。2ヶ月に1回は地域ケア会議に出席し、地域の情報を得ている。町が行う認知症サポーター育成講座にも参加している。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待についての資料はいつでも職員が閲覧できるように整備されている。しかし、基本的な関連法令や具体的な防止対策等について学ぶ機会は十分ではない。		虐待を防止し、また、見過ごすことのないよう、さらに理解と知識を深めるため、高齢者虐待関連法や具体的な防止策や発見時の対応などについて、研修会等の機会の拡充を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料金の請求書とともに、職員の手書きのお便りや写真を送付し、利用者一人ひとりの暮らしぶりや心身の状況等を家族に伝えている。また、必要時はその都度電話で連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日頃から家族に声をかけ、小さなことにも耳を傾ける姿勢を大切にしており、寄せられた意見は小さなことでも話し合い、情報共有に努めている。面会時には、相談窓口があることを説明したり、会話の中から要望等を引き出すよう心がけている。また、毎月家族に送付するお便りに意見要望の欄を設け、意見を引き出せるように工夫している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、常に職員の声に耳を傾ける姿勢を持ち、意見を言いやすい雰囲気作りを努めている。毎日の朝・夕の申し送り時や月1回の業務会議などで職員の意見を聞き、運営に反映する仕組みがある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や職員のなじみの関係づくりを大切に、原則的には異動は最小限度としている。各ユニットの利用者は日常的に行き来しており、それに合わせて職員も両ユニットで協力し合う勤務体制にするなど工夫している。業務の引継ぎも十分な時間をかけ、利用者へのダメージ軽減に努めている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	介護業務マニュアルほか、認知症、感染症、緊急時のマニュアル等が整備され、状況に応じて随時見直している。特に、インフルエンザやノロウイルス等感染症の地域での流行については、情報の得たときには、日々の申し送りで手洗いの徹底を行い、予防策の手順を見直すなど迅速に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は出来るだけ参加するよう勤めている。外部研修参加後にはレポートを作成し会議時に伝達発表をしたり、現場のチーフが介護技術の講習を行うなど、内部での学習にも取り組んでいる。資格取得も積極的に勤め、勤務調整を行うなど支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業事業所の交流会に参加し、研修や意見交換会を行っている。また、職員同士の交換研修や利用者の交流など相互の訪問活動も行い、ともにサービスの質の向上に努めている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間は大変話しやすい明るい雰囲気を作られており、何でも言い合える信頼関係が築かれている。管理者、現場チーフは常に職員の話聞く姿勢を持ち、また、親睦会も設けて、コミュニケーションや気分転換を図りながら働きやすい職場づくりに努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の見学や相談にはいつでも対応している。また、入居前には地域包括支援センターや居宅介護支援専門員からの情報を得ながら、事前に本人と面談して顔なじみの関係づくり、入居時にはその職員が対応して徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者、家族等から、過去の経験や嗜好、こだわりなどその人らしい暮らしの情報を得るように努めている。その情報をもとに利用者が好きなこと、得意なことを見出して、地元の慣習や郷土料理などについて聞きながら料理をしたり、畑の野菜づくりをするなど、利用者が主体的に活動できる場面を作っている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、小さなことでもケアのヒントとして耳を傾ける姿勢を持って家族と接している。家族から本人の過去の暮らしぶりを聞くとともに、ホームでの様子やケア内容などの情報を共有し、家族の状況や思いに沿って一緒に利用者を支えていくことを伝え、信頼関係を築いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日頃の会話、表情、仕草の中から意向や思いを汲み取るよう努めている。家族の面会時には、利用者の様子を伝えて可能な限り家族からも聞き取りを行い、本人の思いを検討している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時から家族にセンター方式のアセスメントの記入をお願いして、利用者一人ひとりの暮らし方の情報を得るよう努めている。しかし、アセスメントシートを記入してはいるが、利用者のニーズ等を抽出していく過程に活用がされていない事例がみられた。		アセスメントシートを活用して把握した情報をうまく活かしながら本人の生活におけるニーズを見出していく過程と方法を、職員皆で学び、よりいっそう質の高い支援へと結びつけることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日朝・夕方の申し送りで職員の気づき等を話し合うとともに、担当職員が中心になって、管理者、計画作成担当者等と3ヶ月に1回介護計画について話し合っている。家族等には面会時に本人の様子を伝えて意見を聞き、本人の意向も踏まえて介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日朝・夕方の申し送りで職員の気づき等を話し合うとともに、3ヶ月に1回モニタリングを行い、年1回は定期的見直しを行っている。利用者の状況に変化があるときは随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昔から馴染みのある理美容室へ行ったり自宅へ訪問したりと、利用者の希望や思いに沿いながら支援している。また、通院に家族等が行けないときはホームで支援し、受診結果を家族に伝えている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりが希望するかかりつけ医に受診している。基本的には家族が受診に付き添うが、状況に応じて職員が対応することもあり、受診結果等の情報は家族と共有している。月に1回は精神科医の医師による往診も受けることができる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合について話し合い、契約書をもとにホームとして出来ることを説明している。常に本人の状態に合わせて、医療機関に相談したり、家族と面談して理解を得て、統一した方針でケアをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライドを損ねるような言葉のかけ方をしないように心がけており、笑顔で穏やかに接している。また、個人情報は他利用者や来訪者の目に触れないように管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースを大切に、時間を決めたり急かすことのないよう心掛けている。食事、ゆっくり食べる人、居室で食べる人など、その日の様子や希望により対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は利用者と毎日一緒に出かけている。テーブルを拭いたり、お茶を出したり、後片付けも一緒に行っている。ごはんやパンなどの主食も利用者個々の希望に合わせて対応し、職員も同じテーブルを囲み、一緒に食事を楽しんでいる。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、パット等を使用しながら出来るだけトイレで排泄できるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則は午後からの入浴時間としているが、18時頃まで入浴でき、希望に応じている。毎日の入浴を希望する方もおり、対応している。ホームの浴室には温泉が引かれており、入浴が利用者の楽しみとなっている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの出来ること、得意なことを把握するように努めている。細仕事や裁縫をしてもらったり、リーダー的な存在の人には挨拶をお願いするなど、好きなことや得意なこと、個性を活かせるように支援している。職員はそのたびに感謝の言葉を伝えている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物に出かけ、外の空気を感じられるよう支援している。理美容院や自宅への訪問など、利用者個々の希望に応じた外出も支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束はしないということを職員全員が認識しており、身体拘束のないケアを実践している。しかし、具体的に拘束に当たる行為や止むを得ず拘束を行う場合など、介護保険法に則った基本的・具体的な内容等について理解を深める取り組みは十分ではない。		職員が知識と理解を深め、日々の中で気づき合いながら身体拘束のないケアを正しく実践するため、介護保険法に則った基本的・具体的な内容等について全職員が改めて学ぶ機会を設けることを期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者が外出する場合はさりげなく職員が行動を共にして対応している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の職員の気づきなどを記入するノートをつくり、リスク把握と未然防止に活用している。事故等が起きた場合は、ヒヤリハット・事故報告書を記入するとともに、危険予測や対応策を話し合いながら改善報告書を作成している。報告書は業務日誌に挟み込み、職員に周知している。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	緊急時対応のマニュアルが整備されている。消防署が行う救急法講習には毎年参加しており、参加した職員が他の職員に実技の伝達講習を行っている。また、看護師から、応急手当の具体的な方法について訓練を受けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	ホームでは月1回避難訓練を行い、災害時の対応を身につけるように取り組んでいる。また、近隣市町村の施設間で連携が図られ、他法人の施設で行う避難訓練に職員が参加するという研修を相互に実施しており、そのたびに意見交換をしている。地域の状況や具体的な避難の仕方など、より良い方法を検討する良い機会となっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事を記録し把握している。利用者の状況や好みに応じた食事形態や味付けにし、十分な食事を確保できるようにしている。水分摂取量にも配慮し、入浴後の水分補給などを支援している。献立は職員が分担を決めて作成しているが、摂取カロリーや栄養バランスについて専門的な助言を得る環境が整えられていない。		献立には季節の食材を利用して野菜を多く採り入れており、利用者にも喜ばれている。今後は、栄養士等に相談したり助言を得たりできる体制を整えると、よりいっそう健康管理面の充実が図れるのではないかとと思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングや廊下などの共有空間の明るさは適度であり、木の色合いを活かした温かみのある家庭的な造りである。季節感のある置物や装飾品、利用者の作った作品などが飾られ、生活感がある。気になる音や匂い等もない。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、家族と職員が協力して、利用者が落ち着けるようになじみの置物や置時計、家族の写真、昔から使用している調度品等を持ち込んでいる。廊下から室内ベッドまでの動線は、利用者が行動しやすく危険のないように考えられて家具等が配置されている。</p>		